

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1267 号	氏 名	丸 山 周 作
論文審査担当者	主 査 今村 浩 副 査 駒津 光久 ・ 柴 祐司 ・ 川井 真		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>栄養状態は様々な患者集団における死亡率の重要な予測因子とされており、安定冠動脈疾患、慢性心不全、慢性腎臓病や末梢動脈疾患などの心血管疾患における予後不良因子とも関連するとされる。近年 Triglycerides (TG) × Total Cholesterol (TC) × Body Weight (BW) / 1000 で計算される TCBI とよばれる簡便な新たな栄養指標が提案されており、心血管患者において一般的に測定される客観的パラメーターで構成されている点が特徴である。TCBI は冠動脈疾患患者における栄養状態の評価に有用であるが、高齢患者における有用性ははっきりとしていない。そこで本研究では、経皮的血管形成術 (PCI) をうけた高齢患者の心血管イベントの予測における TCBI の有用性を評価することを目的とした。本研究では PCI を施行された 75 歳以上の 597 名の虚血性心疾患の高齢患者を、5 年間にわたりフォローを行った。患者は四分位数で 4 グループに分類され、主要評価項目は全死亡、脳卒中および心筋梗塞を含めた主要脳心血管イベント (MACCE) とした。</p> <p>その結果、以下の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">597 名の患者のうち、low TCBI 群では 61 名の患者 (40.9%) において MACCE を認めた。Low TCBI 群は他群と比較して高齢で低体重が多く、冠動脈危険因子では、喫煙歴、高血圧と糖尿病の有病率に群間の差はなかったが、脂質異常症の割合と HbA1c 値は低い傾向であった。Low TCBI 群において有意に MACCE の発症率が高かった (log rank 検定, $P < 0.001$)。予後に影響をもたらすと考えられる患者背景やリスクファクターを用いて行った多変量解析において、low TCBI は MACCE の独立した予後予測因子であった (ハザード比: 1.44; 95% 信頼区間 1.03-2.01; $P = 0.031$)。 <p>以上より本研究では、新たな栄養指標である TCBI が、PCI を施行された 75 歳以上の高齢患者における MACCE 発生の予後予測に有用であることを明らかにした。また脂質パラメーターおよび体重で構成される TCBI で高齢患者の予後予測ができる可能性を示すものであり、臨床的に有用かつ意義の高いものと考えられる。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			